ようこそ

第　6　号
浄土真宗本願寺派
円　光　寺
〒870-0108
大分市三佐3-15-18
TEL097－527－6916
FAX097－527－6949

なごやかなひととき。

（上）余興を楽しむ
笑顔の皆さん

（左）「マツケンサンバ」
に思わず手拍子!!

（2005年10月1日・敬老会）

老いていよいよお念仏

十月一日、仏教婦人会の主催で敬老会を開きました。七十歳以上の方々を対象に、毎年行っています。今年もたくさんのお年寄りが元気にお参りされました。

本堂でみんなでお勤めをします。大きな声でお念仏を申すことができました。有り難いことです。住職からお祝いの言葉が続きます。

老いるということは嫌なことだと、年寄りと言われることを嫌うお年寄りがいますが、年寄りという言葉にはとても大事な意味があります。お年寄りには色んな人生経験を積んで、身につけた知識や技能がたくさんあります。これは一朝一夕にできることではなく、多くの失敗を重ね試行錯誤の末に、その人だけが獲得できる、その人の味というものです。味が出るには十分な時間が必要です。そうした時間の年を重ねて年寄りになっていくのです。年寄りとは周囲から一目置かれ尊敬され頼りにされる「いぶし銀」の存在なのです。

そして、お年寄りにはこの人生の集大成として、次の世代にその人の味を伝えて行くという尊い役割があります。老いていよいよ「お念仏のおじいちゃん」「お寺参りのおばあちゃん」になってほしいと思います。私たちはそうした後ろ姿を見て育てられるのです。

その後、手作りの昼食（第四面に写真紹介）をいただき、お楽しみの余興に入ります。ご門徒の芸達者な面々が歌や踊りを披露してくれました。最後は、恒例の婦人会役員による出し物で、今回は衣装も華やかに「マツケンサンバ」を踊ってくださいました。

賑やかに笑い声が絶えず、来年の再会を約束して今年の敬老会は終わりました。

みんな、参ちょくれ!!

「今晩うちに参ちょくれ」と声がかかります。十二月は報恩講月。地域を決めて日中はご門徒のお家を一軒一軒お参りし、夜は会所を決めて近くの方々が参り合いをします。

最近は近所付き合いも薄くなり、お隣りさんの様子も知らないことが多くなりました。それはそれでいいんですが、昔のお茶日のような参り合いがなくなりました。親戚同士でも法事とかで案内がない限り、近くにいても気軽に家を行き来する習慣が少なくなりました。

「今日はじいちゃんの命日やから、お昼に参ちょくれ」と、ご近所に声をかけ、お仏壇の前で一緒にお勤めをしご飯をいただきました。時にはご院家さんも同席して仏さまのお話を聞くなど、尊い仏縁が日常生活の中にありました。

とにかくお互いが忙しくなりました。プライベートな私の時間が重視され、みんなで寄り合うことの楽しさがわからなくなりました。だからこそ「うちに参ちょくれ」と声をかけ合うご縁を見直したいものです。

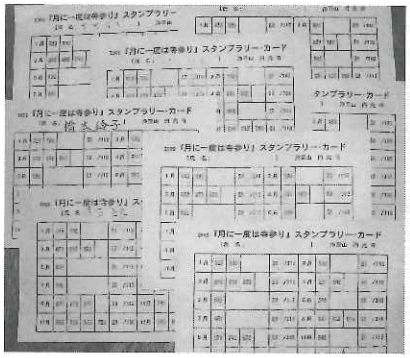
夫婦で寺参り

十一月の御正忌報恩講のご縁にご夫婦でお参りする方が目につきました。大変良いことだと思います。核家族化で、子育てが終わると夫婦二人の生活になります。自由な時間を夫婦で旅行もいいでしょう。夫婦で散歩もいいでしょう。そして夫婦でお寺参りはどうですか。仏さまのお話を聞いて、これからの夫婦の生活をさらに実りあるものにしませんか。

門徒報恩講地域法座　(12月20日、古野秀明様宅)

折々にいらっしゃい

お寺参りは「お参りしなければならない」と意気込んでも長続きしません。何でも力が入ると間違います。まず月に一度のご縁から、日を決めてお参りしませんか。ご縁ご縁に気軽にお参りしていただくのがいいと思います。折々にいらっしゃい。お待ちしています。



スタンプラリー・カード

自前のお参りバッグをつくりましょう

お寺参りや親戚の法事のお参りなどに、自前のお参りバッグをつくってお参りしたらどうでしょう。聖典や念珠、門徒式章をいつもバッグに入れておくと忘れなくていいですよ。

聖典・式章のない方は、お寺にお問い合わせ下さい。

バッグの中のお参りグッズ

スタンプラリーに挑戦しましょう

今年も「月に一度は寺参り」スタンプラリーを実施します。一年を通じてよくお参りされた方には仏さまからごほうびの品を差し上げます。お楽しみに！

お参りバッグを持ってお朝事同行の皆さん

お朝事『法話』より

愛知県で開かれていた万国博覧会「愛・地球博」がいよいよ明日閉幕ということで、昨日からの三連休に全国から大勢の方々が押し寄せているようです。昨日の入場者は何と二十三万四千人ということで、この半年の期間中の総入場者は予想を大きく上回る約二千二百万人にもなるとのことです。

今回の万博のような世界規模の大イベントばかりでなく、ディズニーランドなどのテーマパークに行くと、人気の展示館とかアトラクションといった目当ての場所があります。でも人気の所は、みんなが殺到するわけですから時間待ちがあります。昨日のことでいうならば、何と一番の人気展示館は八時間も待ち時間があったといいます。他の人気の所も二、三時間待ちは普通ということです。

皆さんだったらどうしますか。「これを見に来たから」「これだけ見れば十分だから」と八時間そこでずーっと待ち続けますか。それとも待つのをあきらめて他の所に行きますか。すぐ見れる所は他にたくさんあります。

実際に行った人の話では、いくつかのポイントを決めて「ここだけは行こう」と思ったが、結局は混雑に負けて目当ての展示館を全部あきらめたということで、「少しは見られると思ったのに」と、ぐったり疲れ切った様子でがっくり肩を落として帰っていったといいます。

待つということは難しいことです。例えば友人とどこかで待ち合わせをして、五分、十分だったら少しは許せますが、三十分とか一時間ともなると、私だったらあきらめてもう帰ります。腹を立てて帰ります。

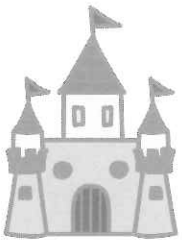
さて、私たちの阿弥陀さまは、この私のことをいつまでも待っていてくださる仏さまです。阿弥陀さまのお立ちになられたおすがたは、迷いの世界に沈む私のことが心配で心配で、座っておれないで立ち上がり、右手をあげて「こっちに来い」とさとりの世界をしめしてくださり、左手を垂らして「そのまますくう」と南無阿弥陀仏の六字の名号となって、阿弥陀さまの方から私のところに来てくださっているおすがたです。

私がこの人間界に生まれる、ずっとずっと昔のそのまた昔の十劫という昔から、阿弥陀さまは待っていてくださっているのです。「私の真実を聞いてくれよ。わが名をとなえてくれよ」と今もおはたらき通しです。

私の口からお念仏が出て来てくださるということは、本当に尊い有り難いことです。阿弥陀さまに背を向け「私が、私が」と日暮らししているこの私に、阿弥陀さまはいつも寄り添い、お浄土への人生を共々にしてくださいます。

阿弥陀さまが待っていてくださいます。阿弥陀さまのお話を聞きましょう。お念仏を申しましょう。

（九月二十四日）



月に一度は寺参り
誘い誘われ　皆ともに
つとめて聴聞励みましょう

世々生々

九月十一日の総選挙で、自民党が歴史的大勝を果たし、公明党と合わせた政府与党の衆議院議席数は三分の二を超えました。これは憲法改定をも発議できる大変意味のある数字です◆今回は小泉首相主導の「郵政民営化に賛成か反対か」の選挙でした。この結果を踏まえ少し気掛かりなことは、他の重要な政策までもが国会の数の論理だけで推進されるのではないかという危惧です◆民主主義の原則は、徹底した論議と少数意見の尊重そして多数決の論理にあります。とりわけ少数意見の尊重は成熟した社会の証しでもあります◆私たちは一人一人顔が違うように、一人一人主義主張がそれぞれ異なります。そのような私たちが構成する社会の有り様の基本は、一人一人の違いを認め合うというところから出発します。どこまでも異なる意見を排除しない。粘り強く議論を重ね、誰もが納得いく結論を導き出すよう最後の最後まで努力する。そのことが重要です◆しかし悲しいことに現実社会はそこまで成熟していません。人間だけではない、いのちあるもの全てが共に生きる社会を、仏さまはどこまでもどこまでも願っています。

（住職）

お浄土への人生
シリーズ
『同行さん』⑥
世話人会

総代会を支え円光寺の護持運営のお手伝いをしてくださるのが、世話人会です。

三佐地区内の門徒を地域ごとに二十六班に分け「お世話人」という代表者がいます。お世話人には門徒と寺をつなぐ重要な役割があります。

区画整理事業で三佐の町並みは大きく変わりましたが、昔からの班編成で、海原、新町、出町、本町、仲町、裏町、板屋町、仲屋敷、薬師堂、仲村、大村、新港、沖、そして家島、鶴崎に分かれます。

お世話人には、寺行事の案内など配り物をしたり、護持資金や法要懇志を集めていただきます。多い班で十三軒の門徒がいますが、留守で何度も足を運んだりと大変なご苦労があります。ご門徒皆さんのあたたかいご協力をお願いする次第です。

お世話人方の法要行事への積極的な参加は、本当に頼もしく大変有り難いことです。十一月の御正忌報恩講にも、大掃除やおみがきの準備から、後片付け、お供物配りまでご加勢いただきました。

門徒みんなのお寺に、そして地域に広く開かれたお寺になっていけるように、いよいよお手伝いいただきたいと思います。

昭然前住職七回忌法要

本堂内陣余間に荘厳壇をご安置しました。

百余名の門徒衆がお参りされ、遺徳を偲びました。(11月1日)

御正忌 報恩講

登尾唯信御講師（宮崎・松尾寺住職）

十一月二十六日から二十八日まで、お勤めさせていただきました。

こども報恩講のようす（11月26日）

今年はグループ「あすなろ」にペープサート(紙人形劇)を上演していただきました。

●● 敬老会のお昼 ●●

(左) 酢のもの、煮まめ
ゴマ豆腐、ちらし寿司
(右) はんぺん汁

あとがき

「一年経つってアッという間ですね」と、挨拶がわりに言っていた師走も足早に過ぎ去り、新年を迎えました。

いつものように「明けましておめでとうございます」と判を押したように年賀状が届きます。

何がそんなにめでたいのか。

一休禅師は「門松は冥土の旅の一里塚めでたくもありめでたくもなし」とよみました。

年をとるということは、死期が近づくことであり、めでたいなどと喜べないということでしょうか。

お念仏に生きる私たちはどうでしょう。「死んで逝き去るのではない、浄土に生まれ往くいのちを今生きている」ことを聞かせていただきましょう。